

オオシラビソ稚樹の移植作業（第3回）に参加しました

令和6年9月6日（金）、樹氷復活県民会議主催によるオオシラビソ稚樹の移植が蔵王国国有林で実施され、山形市立の小中学校（蔵王第二小学校、蔵王第三小学校、蔵王第二中学校 山寺中学校）の生徒、山形県立村山産業高等学校の生徒、各学校の教職員と県民会議の構成員、合わせて126名が参加してオオシラビソ林の再生のために取り組みました。

蔵王ロープウェイ樹氷高原駅わきで開会式を行い、小中学生のグループごとに村山産業高校生との顔合わせを行った後、二手に分かれてオオシラビソの稚樹の自生地それぞれ移動しました。山形署職員の実演を見た後ゲレンデ敷地の笹ヤブの中で稚樹を探し、植木ショベルを使って稚樹を採取しました。

地蔵山頂駅付近の移植区画で、それぞれ採取してきた稚樹を移植しました。地表にはびこるササの根茎を切るのに手こずりましたが、村山産業高校生の丁寧なサポートのお陰で、21本の稚樹の移植を完了させることができました。ある小学生の「きれいに育てほしい」とのコメントが印象的でした。

この日の移植により、山頂駅付近の移植区画への植栽本数は、移植を始めた令和元年度からの累計で258本となりました。当日がんばって移植して下さいました小中高校生の皆さん、および県民会議を構成する関係機関の皆さん、曇天で少々肌寒い気候の中、大変おつかれさまでした。

